



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会 通 信

黄色い飛行船 第10号

2016年 6月24日

言葉と込められた重さ

永寿会通信暫くお休みをしておりましたが、意を決して再発行していきます。

藤沢の本部の駐車場内にも18日(土)にデイサービスの皆さんと古代米(黒米)の苗で田植えをしました。もう既に田園では青々とした稲が風に揺られ、ツバメが飛び交う懐かしい風景です。四季の移ろいで癒される感じがします。

さて、先日5月27日に、主要7カ国首脳会議(伊勢志摩サミット)閉幕に合わせて米国現職大統領としてオバマ氏は初めて被爆地ヒロシマを訪れています。彼は6年半前ノーベル平和賞を受賞していますが、その成果や軌跡としてどうかという疑念の声は有りながら一つの決断をしたのだと思いました。平和祈念館の視察や慰霊碑への献花の後、その十数分の演説で、恐怖の論理に捕らわれず、核兵器無き世界を追求すると主張された。特徴的な言葉として「71年前死が空から降り、世界が変わった。閃光と炎の壁が都市を破壊し、人類が自らを破壊する手段を手にした。」「1945年8月6日朝の記憶を薄れさせてはいけない。その記憶は道徳的な想像力を刺激し、変化を可能にする」等、非常に詩的かつ哲学的表現で述べられている。また、ただ能弁で、一方的にまくし立てるのではなく、演説姿勢や間の取り方には深い印象を得るものでありました。

ある論調では主語がない空虚な演説であると批判する点も出されましたが、安倍首相の居丈高な発言に比べれば、好意を持てる表現と受け止めました。全世界に大きな影響を与えるオバマ大統領の発言には、自ずと表現する範囲が制約されている中、精一杯のものかなーというところです。言葉の前に「思い」が大事です。

よく言われるのは弁舌爽やかな営業マンはあまり成果を出せない。むしろ朴訥で誠実な個性の方が向いており、成長すると言われていています。表現された言葉には辞書にある意味だけでなく、その人の熱意や重さ、経験を含めた内面世界が込められており、むしろ後者の方が人の心を打つものだと思います。話が下手と気にされている職員の皆さんは卑下せず、その「思い」を伝えていくべきです。

以 上